

---

# 超絶暇人 + 複雑家庭持ち = 地球破壊！？

雀羅

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

超絶暇人＋複雑家庭持ちⅡ地球破壊！？

### 【Nコード】

N2707D

### 【作者名】

雀羅

### 【あらすじ】

超人＆暇人の星染緋緒と、複雑（…？）な家庭を持つ近衛陽聖の織り成す地球破壊計画ストーリー！

## 其ノ弑

…なあ、地球割ってみねえ？

その言葉から、私の心の翼は羽ばたき出したんだ。

「てゆうか、マジだるいんですけどおー。なんかー、マジないしー、みたいなあー？」

教室でそんな言葉を大声で発しているのは、私こと星染<sup>ほしぞめ</sup> 緋緒<sup>ひお</sup>。

ちなみに今日のファッションは膝下スカートに黒髪三編み、丸メガネ。

…いや引かんとして下さいよ、暇だったんだもの。

まずは、客観的に見た私を紹介しよう。ということで、みんなに私のことを聞いてみよー、イエエエ！

A君『頭いいよなー、学年一位キープだし。でも変人』

B君『こつ、この前のメイドは萌えました！かわゆす！！でも変人キタ（。。（。』

Cちゃん『親しみやすく、友達思いのめっちゃいい子。けど変人だね』

Dちゃん『面白い発想とファッションセンスやで ま、変人やけどな』

とのことですね！

ちつつち、まーったくみんな、私のことをわかっていないねベイベー（きらんッ

それでは、自分で見た自分像を紹介しようかな。

私を表すには一文字で事足りる。それは【暇】という文字。

【暇】だから、それを潰すために勉強している。学年一位キープの理由は、ただそれだけ。

【暇】だから、それを潰すために肌の手入れやメイク研究をした。可愛いと言われる理由は、ただそれだけ。

【暇】だから、ファッションとかで遊んでいる。ただそれだけ。

…あれ、親しみやすいと友達思いと面白い発想の説明がつかないよ！どーしよ、どーすんの、私！！（L i eカードプリーイイズ！）

続くウ！

## 其ノ丹

続いたア！

やったあイヤツフウ！これでLi eカードは使わなくて済むかもしれない！選択肢が減るのは良いことなんだよ（親指グツ

「元来持ってた性格だろーが。それくらいわかれ。…まったく、学年1位のくせしてよ（ぼそり」

「おーう、いっつナイスウー！！…じゃないっスよー！！！！」  
…あれ、急に教室にブリザード（どっぴゅーん

ま、そんなもの華麗にくるりとスルーすることにして（わざとじやないよ！）

「なあーんで私の心を読んでんのさ！ああ、本職エスパーですかそうですね、この近衛<sup>エ</sup>金鶴め」

お、なんかすっごい憐れんだ目で見られてるよ私。

何故だ、何故なんだい金鶴くん！わかるような説明を下さいギブミーッ？ ……きゃ（ポツ

「やめやがれアホ女。まったく、あんたにわかるようによく説明してやるよ。まず、エスパーじゃねえ。あんたが全部口に出してただけだ。

次に、金鶴じゃなく陽聖<sup>ようせい</sup>だ。なんだよ金を生み出す鶴ってことか？で、（エ）って何だよ。エスパーの略かコラ。ちげーっつの。

最後に…、なんで頬を染める必要があるんだよ！」

「金の鶴じゃないよ金ヅルってことだよ、気付いてよー」

まったく、ツツコみは速度が命だったのに何だあの速度。亀もハワイもびつくりだよ！そして私もびつくりだ！

…あ、緋緒島とかできないかな。若しくは星染様島。むー、緋緒様最高島とかどうか「おーい、戻ってこーい」

## 其ノ三

\*

「おう、用件は何だ。聞いてやらんこともないぞ。ほれ、苦しゅうない、言うてみよみよみよみよ」

え、さっきまでなんか空想の世界にふわふわ飛んで行き（逝き）かけたったっつーのに、戻って来んの早っ！てか、何であんな態度デカくなつてんだ！？やばい、なんか語尾も気になる、つつこみてえ……けど！

「ああ、そのことなんだが」

「……っ！？何ー故ッツコまないんだい！？」

ええええええ！？何ー故を『なにーゆえ』と発する人は普通いねえよ！ていうか見たことねえよ！ああもう、キャラ壊れるからに決まつてんだろーが、ったく……。ツツコみたいのにつっこめない俺の気持ちもわかってくれよこんちくしょおおっ（ぐはあ！

「は？俺そんなんしねーから。で、用件言っていいか？」

「……うん、言ってしまいなよ、もうさ」

なんか凄い『興ざめー』みたいな顔されちまったよ！陽聖ダメージ3くらったんだけど！まだピッコンピッコンピコリンコするほどではないから大丈夫ではあるんだけどな（親指クイツ

ふふん、俺様の体力ナメんなよ？あ、けど心は傷付いた。だって陽聖さんの心はちっぽけだから。オイそこお！『ツツコミキャラなの

に』とか言っな！ツツコミでも心が傷付きやすかったりするんだよ。  
キャラの差別イクナイ！！（ぜはあぜはあ

「なあ、地球割ってみねえ？」

「いいよ」

「って即答かいいい！！」（ズビシッ）（…あ。）（「



## 其ノ氏

\*

よーっしやツツコンでくれたよーい いやいやさ、ツツコミい  
ないと悲しいし悲しいし話ぐだぐだだったんですよー。

おっと、これは裏話だから他のみんなには秘密だゾ （キャハ！

「あ、んで何だっけ。豚丸焼きにしてみねえ？だっけ。うんいいよ、  
うちのペスを与えよう。そしてうちの丸太と縄も与えよう」

「いや違うから！そしてペス提出しなくていいからな！？くあっわ  
いすおおお（可哀相）だろ！？」

OH、いいツツコミ。これを求めていたのよねー…。

「地球割るんでしょう？しょうがないなあ、やってあげるよ！ほら、  
一緒にジャンプして地団駄ふんでみな？」

そう言うと、陽聖は不思議そうな顔をして、ジャンプして地団駄を  
踏んでくれる。

あー、お馬鹿なツツコミもいいわね。これからはツンデレ（つんつ  
んデレデレ）にかわって、アホツコミ（アホなツツコミ）が流行る  
かもね、いいえ、流行らせてみせる…！（ぐっ

「な（ダンダンダン）あこれって意味あるのか？」  
ジャンプン

「あるわけないじゃん？」

「っはあああ！？（すってんころり）」

あ、最後のは陽聖がコケた音ね。一昔前のギャグをこんなに上手く取り入れた奴、久しぶりに見たわ。

「ちよっ、おま、はああ！？じゃあなんで言っただよ」

「面白かったから？」

「聞くなあああ！！」

おーっと、陽聖いじるのも程々にしないと、折角の逸材が逃げちゃうよね。そろそろ本当の意味を…

「嘘ウソ。意味あるからさー」

「…何だよ」

「地球割るため てへっvv」

言えないな。だって無いんだもん！

## 其ノ圖

\*

うつわ、ダメだ。何か俺はすごく関わってはいけない物体と出会ってしまったみたいだ。

…いや、まだ大丈夫なハズ！俺は何も見えてない、何も聞いてない、何も存在しな（現実逃避）

「ねえねえ」

「ナンデスカ？つか、俺の崇高な思考を邪魔すんな」

よし、キャラ戻せた！俺ったら、やれば出来る子じゃん！？  
うっし、このまま頑張ろ。

「なんで割りたいの？」

っ、なんか、マトモになった途端に嫌なとこ突いてくるな。こいつが暇そうだからって、頭いいってこと忘れて油断しすぎたかな…。  
なんかめっちゃ見てくるし、言わなきゃ協力してくれなさそうだし。

「言わなきゃ、ダメか？」

「言ってくれた方が協力しやすいんだよねー」

…あー、しやーないか。なんか、言うしかなさそうだしな。

「実はな…、親父の意志を継ぐためなんだ。

親父は無類の鉄道好きでな、俺に色々な事を教えてくれた。それで、  
壮大な夢を語っていたんだ。

もしも地球が割れたら、それをレールで繋いで世界を鉄道で救いた  
い…ってな」

「え、ええーと…、お父さんは？」

「いつの間にか借金の保証人にされていて。んで借金した奴が蒸発  
したから親父に全部のしかかって。

それで、それで親父は　っ！」

「…ごめん。そこまで聞いたら、もういいよ。辛いこと喋らせたね」

「いや、ここまで話してわかってくれたのは、お前だけだよ…。

親父が泣きベソかいて、家の庭に穴を掘ってその中に引きこもって  
いる、ってな」

## 其ノ漆

\*

…え、あれ？亡くなったんじゃないで、引きこもったの？引きこもりって、あのちよつと前にブーム来たアレ、だよな！？  
てか、こいつ（陽聖）の家ってお金持ちじゃなかったっけ…？  
そう思い尋ねたところ

「え、だって借金全額返済したし」  
ということでした

…いやいやいや、ちよーっつんびり待てえい！なんかおかしくね？  
いや、明らかにおかしいよね！？

「じゃあ、なんで陽聖がお父さんの意志を継ぐの？借金返せたなら大丈夫じゃんか！」

「え、引きこもり癖がついちゃって、穴の中で日々電車のプラモデル作ってんだよ」

うつわー、いろんな意味で悲惨すぎるねまあったくう！（ばちこん  
つ

「んでそれで、親父を穴から引きずり出すために、地球割って鉄道で繋ごうかなって思ってたんだ。  
そしたらよ、きつと目えキラキラさせて出てくるはずだから…。少なくとも、俺はそう信じてる」

え、陽聖サンなんかシリアスむーど！？駄目だ、あたしこんなんでもシリアスになりきることはできないよおお！っていうか、どう対応していいのかわからない（きらーん）  
んんん、誰かへえっるぺえっすむいいいいん！

「あ、んでき、協力してくれねえ？」

おっとー、ヘルプじゃなくて更に混乱させる声が来ちゃったよ。  
どうしよう、どうしよう、むむむーんみむーむむっんむっ……と唸っている

「暇なんだろ」

「イエス！」

…あらら、条件反射って恐ろしい！

## 其ノ質

\*

おお、本当だ。あいつの友達から『渋柿のように渋りやがったら、暇の一言で元通りだよドッキウン』って言われた意味がやっとわかったぜ。やっぱりサーチって大切なんだな偉いぞ俺vv（ぴーすぴーす！

まあ、そうやって緋緒をからかっている友達も友達か。えーと、あれだあれ、類は友を呼ぶ？

「って、おおお俺はあんなのとは類友じゃねえからなああ…ってキャラ崩れたおうまいがっ！」

「…ねえ、一人ノリツツコミはやめてくれないかい？君は君で寂しいのかもしれないが、見ているだけの私はもっと寂しい。まるでウサギさんのように、君の放置ぶれのせいでこの世からサヨウナラしてしまうかもしれないじゃないか。

俗にいう、ブロウケン ハートだよ」

「それは失恋だ」

なんか、こいつと話していると自分が更に馬鹿になっていくような気がするな。

なんでこんな奴が学年一位なんだろ……ぐすん（遠い目

キーン コーン カーン コオオン

って、予鈴鳴ってんじゃねーか。そういやあ、次の時間って数学の小テとかいうもんがあったなー

「ええええええ！じゃっ、じゃあ考えといてくれよ！？」

そう言い残し、取り敢えず公式を詰め込みに自分の席へと戻った。

緋緒も同じく慌て出した…わけはなく、一瞬目を見開いてクツクツと笑いながら

「あいつ馬鹿だ。馬鹿だ！ヒヤッヒヤッヒヤッヒイー！！」

…心外だ。ていうか最初の大人しい『クツクツ』は何処行っただよ！？



## 其ノ弐

\*

今は英語の授業中だ。うう、つまらん。ひいーまあーだああん！  
そっいえば陽聖が最後に考えとけとかなんとか言ってたなあ。

ちなみに陽聖は今、現在進行形で真っ白だ。：真っ白いんぐ？真っ  
白っている？

英語の小テストが始まった瞬間に真っ青になっていて、終わった瞬  
間には灰になり飛んで行こう（逝こう？）としていたが、周囲のク  
ラスメイトの努力によってどうにか白くなり、灰となるのを堪えた  
ようだ。

：くあー、暇だ！なんか暇つぶしはないか！？思い出せ緋緒隊員！  
しっかりしてください緋緒隊員！  
ハッ！！

「プロジェクト参加決定！キャッホホオオイ」

「こら星染！訳してみろ、できなかったら廊下で星座だ」  
と私に向かって先生の怒鳴り声が飛んでくる。

「これ解いたことある！塔大の入試でしょ？  
『そしてウナギはまるで風のようにぐねりぐねりと去って行った。  
ちなみにその風は、春の麗らかな日にザアッと駆け巡る、あの気持  
ちの悪いような良いような風のことである』だよね」

「…あつとる。席につけ。

あーあ、誰かこいつとめてくれよ。もうワシには無理じゃ、すでに突っ込む気力も毛も無くなった。もう、もういやあああつん！」

わお、先生が隅っこで蟻さん探して楽しみ出しちゃったよ。

先生だけズルイー！ようし、私もまざろうかな

「「「やめとけ」「」」

あれ、なんかみんなにとめられちったあ！  
なーんでだろーう？

## 其ノ弓

\*

うつわ、草古先生可哀相だな。そりやそうか、あんな奴の担任、まあつまり俺らの担任任されてるんだもんな…。

そんなこんなで放課後になっちまった。俺はあの女のせいで英語を数学だと勘違いして、小テストの補習ひっかつたんだよな（どーん

「あー、くそっ！しかも何で俺一人なんだよ！！」

「ワシもおるわい！」

…あ、草古先生居たんだ。こんなキャラだったか？つか、やべー、気付かなかったよ。この先生、まさか

「幽霊！？」

「んなワケあるかぁ！」

ガラッ

「たあーのもおおっう！先生、なかなか良いツツコミだね。けどね、陽聖はボケじゃなくてツツコミに育てる予定なのよ！」

だから、ツツコミの勉強するんじゃないのなら隅っこで蟻さんと遊んどいてね」

「先生いじめんなよ!？」

うわ、先生固まってるし。ていうか、実は緋緒が叫びながら入って来た瞬間から固まってプルプルしてたけど、なんで緋緒は気付かねーんだろ…。

「あ、陽聖さんよ!地球の割り方について説明するよー。

ちやあんと黒板見といてねウハハンハン!」

うっお、先生からチョーク引ったくって、黒板に色々書き始めた。悪意がないから、たちが悪いんだよな…。

「って、わかんねえわかんねえよ!なんだよその記号の羅列は!」

「だからねー、重力がこんな感じで引き付けてるから衝撃はこれくらい必要で。ちなみにドーンって感じじゃなくて、グワバッキンバム宮殿だあ　みたいな感じで想像してもらえれば良いから!んてからー…」

やべえ、ここに変態な天才が降臨(ふるりん)じゃないよ、こうりんだよ!)してしまったよ。

後光が見える、その光が草古先生に反射して更に輝きを増し…

「草っ古せっんせー!？」

「なんまいじゃー、なんまいじゃー…ん?何じゃ近衛くん。ワシは今、神に祈っとなじゃ。邪魔せんでくれるかな!?(くわっ)」

「ボケに転向したああ!？」

駄目ですよ先生、老人がボケになったらそこで人生は終了、じえんどですよ!」

ちなみに草古先生が祈っていたのは緋緒だ。見分けがつかないって…本格的にボケか？

んで、俺らのことなんかほっぽったまま、緋緒は式と図を書き連ねている。

すごいなコイツ、本当に神が降臨してる、または前世が神とかじゃ…

「うふふー、これで地球の生死は私の手っのなつかにいいー!」

いや、悪魔だな、うん。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2707d/>

---

超絶暇人＋複雑家庭持ち＝地球破壊！？

2010年11月19日10時53分発行